

令和7年度 第1回砂川市総合教育会議

○日 時 令和7年12月17日（水）9:00～10:10

○場 所 砂川市役所 3階 市長会議室

○出席者

（構成員）

市 長	飯澤 明彦
教育長	板垣 喬博
教育長職務代理者	平間 芳樹
教育委員	皆上 嘉代
教育委員	住 亮太郎
教育委員	坪江 利香

（事務局）

総務部長	三橋 真樹
政策調整課長	安武 学
政策調整課企画調整係長	藤田 美穂

（教育委員会事務局）

教育次長	玉川 晴久
指導参事	神島 亘基
技 監	徳永 敏宏
学務課長	早川 浩司
学校再編課長	篠崎 強

○議事録

1. 開会

事務局

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまから、令和7年度第1回砂川市総合教育会議を開催いたします。はじめに、飯澤市長よりご挨拶を申し上げます。

2. 市長あいさつ

市長

本日はお忙しい中、総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。

この会議は皆さんご存知のように、地域の教育課題を行政と共有するというような目的で進めていく趣旨で設置されてございます。また、先月、北海道新聞で、空知管内の小中学校学力テストの調査結果も出ていまして、北海道も全国平均より上がっていかないという中で、秩父別ではかなり成績が上がっているような報告も出ておりました。これはおそらく皆さんご存知のように、学年、学年で学力の波というものがあるかと思いますが、その波を少しでも高められるような教育環境ができていけば良いのかなという風に思っております。

今日は学力テストの結果の他に、来年4月に開校予定の砂川市の義務教育学校についても皆さんから色んな意見をお聞かせいただきながら、進めてまいりたいと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。

事務局 これ以降の進行につきましては、砂川市総合教育会議設置要綱第4条に基づき、議長となります市長のお手元で進めていただきます。よろしくお願いいたします。

市長 議題に入る前に、本会議は原則公開としているところがございますが、今日の会議については、(2)「令和7年度 いじめアンケートの集計結果について」及び(3)「令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について」は、個人情報に関する案件であることから、非公開とさせていただきますのでご了承願います。

3. 議題

(1) 砂川学園について

市長 それでは議題に入ります。議題(1)「砂川学園について」、教育委員会学校再編課 篠崎課長、説明をお願いいたします。

— 教育委員会学校再編課 篠崎課長より説明 —

市長 ただいま(1)「砂川学園」について説明がありましたけれども、それを踏まえて意見交換をしたいと思います。委員さんからご意見やお考え等をお聞かせいただければと思いますがいかがでしょうか。

委員 結論から言うと、やはり人だよねという話になりました。校長先生、教頭先生、そして、どういった学校を運営していくのかというところで、個々の先生方一人一人の素質が高くなければ、校長先生や教頭先生の考えだとか信念を浸透させて動いてくれる人を作らなければいけない。そこがあって良い教育につながるのではないかなという話になりました。人と人との関わりを大切に、良い先生方に一人でも多く来ていただけるように頑張らなくてはならないというところ。そこがやはりスタートをどう円滑にうまくできるかにつながるのではないかなという風に思っています。初めてこれだけ大きな義務教育学校になるので、二の足を踏む先生方もいらっしゃるだろうし、先生方にも経験のないことを経験していただくことになるため、難しい部分もあると思うんですけれども、そこをどうにかみんなで、気持ちをこちらに向けていただくというところに力を注いでいかなければいけないのかなという風に思います。

市長 学校運営はやはり先生達がまとまってやってくれて、初めて良い学校になっていく。

委員 その熱意が生まれるか生まれないかで、子ども達への還元という意味でも全然変わってくる話になるので、どれだけ良い先生方を揃えることができるのかが一番大切だということにやはり集約してしまう。

市長 その通りですね。子ども達にとっては環境がガラッと変わってしまいますからね。

委員 大きくなるから心配だという保護者の声も聞こえるんですよね。小さいから手厚いのではないかと。ただ、良い面も悪い面も大きくなるとあると思うんです。良い面としては、例えば今まで1学年1クラスしかなく、はずれの先生や当たりの先生とよく言われますが、良い先生ばかりが学校の中で揃っている訳ではないので、学年が変わるごとにどの先生になるんだろうと。それによって子ども達の1年間ないし2年間というのが決まってくる。すごく大切にしてくれて、心に寄り添ってくれて、学力の面でも寄り添ってくれて、どうやってこの子達を大人にしていこうかということを考えながら育てていこうという風にしてくれる先生なのか、それとも、自分の考えや今までの経験、こうしなきゃいけないということで、昔もいましたけども、一日中怒鳴って型にはめてしまえば完璧にできるんだというような教育をする先生方もいる。そういったところでどういった先生にあたるのかで、1年2年決まってしまうということがあったんですよ。でも、義務教育学校になると、2クラス、3クラスできる中で、合う合わないで本当に困った時に、隣のクラスだったり、もしくは、これではまずいなという時に校長、教頭先生の現場の判断として、変えていくこともできる。そういうことで色々と風を作っていくことも可能。良い部分と悪い部分があると思うんですよね。だからぜひ、良い人を揃えることで良い空気を生むという風になったら良いんじゃないかなという風に思っています。良いところはたくさんあるんですよ。私達にできることもありますし、みんなの力でできることもあります。本だったり、経験の話だったり、色んなところで子ども達の心を育てていく。そういうものを用意することもできるし、用意するだけではなくて、大人がこういうものがあるんだよと提示してくれることで、それに触れること、子ども達が触れるチャンスが生まれてくる。それをどれだけ多く作ってあげられるか。それはやはり教師の力量にもかかりますし、周りの人間の熱意もあると思うんですよね。これは良いんじゃないですか、これはこうなんじゃないですか、先生のやっていることのこれは素晴らしい、でも、こんな素晴らしいこともあるからどうですか、やってみませんかという提唱をしたり。そういうことはやはり日々必要になってくるのかなという風に思いますね。コアな話じゃなくて大きな話で申し訳ないんですけど、多分もう少し煮詰まってくると、小さな話がいっぱい出てくると思うんです。

市長 実際に始まってくると色んなものが見えたり、今見えない部分もまた見えてきたりだとかもするんでしょうし。まさに本当に人ですね。

委員

工夫も大切だと思います。今回こういう風に図書館というかたちではなくて、みんなが手に取れる、バスを待っている時間でも読めるし、たしか市の図書館と学校の図書スペースでリンクできる機器を入れて、こちらの蔵書の検索をすることができるシステムを入れるはずですので、そういったことでより多くの知の部分とフランクに触れ合うことが可能かなという風に思いますね。そういう工夫にしてもそうですし、本の配列一つにしてもそうですね。そういうところにいかに工夫を持っていくのかという細かいところの工夫一つで、それが活きるのか、ただの飾りになるのか大きく変わってくると思うので、そこをぜひ、子ども達がバスに乗ったところから、学び舎に入ったところから、日常生活で笑うところ、トイレに行くシーン、ご飯を食べるところ、友達と休み時間に何をするんだろうか、そういう実際のことをイメージすることで、それがどんな風にうまく手に取る瞬間がくるのか、欲しいと思った時にすぐにできるのか、イメージと造りをどんどん近づけてリンクしていくという作業はすごく大切なのかなと思います。そのために、図書館の司書さんですか、今の学校の図書の先生方もいらっしゃると思うんですけど、この本は良いよという情報をもらったりですとか、そういうものを持ち寄って一つ一つ小さなところから作り上げていくことも必要になってくるのかなと思います。

市長

うまく連携を取りながらね。

委員

みんなの力が活かせるかたちにすれば良いのではないかと思います。

委員

非常に大きな義務教育学校ができるということで、開校してから3年間できっちりと良いかたちで進めていかなければならないんだろかなと思っています。色んなところから大注目なので。義務教育学校を作る話が出た時から、ずっと私は言ってきましたが、小学校の先生と中学校の先生って水と油なんですよ。本当に交わらないんですよ。そこをやはりもうそんな時代じゃないし、うまくやっていかなければならない。実際に子ども達と接する先生方がそう思わないと大変なんです。先に義務教育学校が開校した、例えば歌志内だとかもそうなんですけど、人数が非常に少ないんですよ。少ないけど、やはり小と中の先生は交わらなくて、最初のうちは相当色んなところでうまくいかないことが結構あるんですよ。ただ、やがてお互いが理解し合うようになるとうまく進んでいくというのも事実なので、砂川学園は本当に人数も多いので、早くうまく交わるようなかたちに進まないでだめだと思うんですよ。うまくいったら、きっと先生方も砂川学園良いねと言って、砂川学園に異動希望を出そうと思う人が増えてくると思うんです。そうならなきやだめだと思うんです。悲しいことに現在、砂川学園への異動を自ら希望する先生方が空知管内にいるかと言ったらほぼいないんです。悲しいけど。やはり何が起るかわからないし、そんな大きな義務教育学校は厳しいよねという見方がほとんどなんです。でもそんなことを言ってももう待ってはくれないし、4月から実際にやっていかなければならないので、スタートから3年間の間に、中学校

の先生と小学校の先生がきちんと情報共有できるようなかたちで、うまく歯車が噛み合って進めば良いなという風に思っています。

市長 そうですね。前から、小学校と中学校の先生は全く違うものだよとずっとおっしゃっていましたよね。そこがうまく交わってくれないと良い教育環境はできてこないですね。

委員 まだ机上の空論というか、皆さん持ちあって話しているだけで、どんな風なのかなというのは想像もできないというか、本当に難しいだろうなと思うんです。まず引っ越しをどうするんだとか、日程はどうなんだとか。その辺りも相当詰めていかないと。教員がみんなで机だとかを持って運ぶという話もしましたし、業者が入るのかだとか。一つ一つ細かく決めていかなければならないというのが本当に大変だなと思うんですよね。始まって色々改善していきながら、3年くらいかけてうまくやっていないと。前見学に行った、当別学園。そういうところの良い部分も取り入れてとは思いますが、規模的には砂川の方が大分大きく前例がないので本当に難しいなと。誰も経験していないことを想像で積み上げていくのは本当に大変だなという風に思いましたね。

市長 現段階だったら道内で1番大きくなるんでしょう。

教育長 その予定です。多分780人くらいいますから。当別で470～480人という話なので。

委員 それでもすごく大きい学校でしたよね。

委員 体育館もすごく特殊な造りをしていました。上でランニングができるようにしたりだとか。

委員 次に予定しているところってどこかあるんですか。

事務局 長沼です。砂川学園の次ぐらいになるかと。600人くらいだと思います。

委員 そういう意味では、砂川が成功すれば徐々にそのモデルが普及していく状態になるかもしれないですね。

委員 ここで子育てしたいと。病院がある。出産から子育てまで、こんな良い環境はないのではないかとってもらえたら、人口は増えるじゃないかという話もしました。これは成功させなきゃねと言っていて。

委員 先ほどの説明で、結構小さなことだけど、保護者の方は、質問というか疑問というか、心配に思っていることが結構あるのかなという風に見受けられたので、少しでも負担を少なくしてあげるというか、誰かに何かを相談すればす

ぐ対応してもらえるような。保護者の方々の気持ちが軽くなっていかないと、それをそのまま子どもに伝えてしまったら、マイナスイメージのまま子ども達が学校に来てしまうということが一番心配かなと。保護者の方達の力も借りながら、みんなでこの新しい学園を作っていくというくらいのイメージでいると良いのかなという風に感じていました。

市長 そうですね。保護者の不安をまず解消してあげないと。

委員 子ども達にもどうしても伝わってしまう。

委員 授業をやはり面白くしないといけない。学力を育てる意味でも、先生方にも頑張ってもらって、面白い授業が必要だと思います。今北光小学校の理科の先生が各小学校をまわって授業をしてらっしゃいますけど、学力テストの部分でも出ていますが、理科はすごく伸びているんですよね。それはやはりその先生の力だと思うんですよ。実際にうちの子ども達が先生の授業を受けた時に、本当に楽しいって言っていました。教科書からはみ出して、中学校やもっと違うところでも教わるようなところまで全部通して話をしてくれる。それがたまたま楽しい。理科ってこういうことだったんだと。そういう授業をしてくださるんですよね。難しくないのと聞いたら、楽しいと。勉強って楽しいと吸収しますし、何でも知りたくなる。だから、やはり惹き付けるような授業は本当に大切。知識も大切なんです。学力テスト云々よりも、知識とか知恵とか、そういうものの基礎というのが、膨大な知識を身につける、それを知ってるかどうかということにかかってくると思うんですよね。何を知って何を吸収してきたのか。理科でも社会でも歴史でももちろん全部そうですけど、そういったものの知識の先に、生きていくうえで、本当にこの情報は正しいものなのかどうなのか。今AIを使ったりすると、自分の検索したものや興味のあるものばかりが寄ってきてしまって、その知識に溺れてしまったりすることがあるんですけど、それが実際に正しいものなのかどうなのかというのは一定のきちとした知識を知っているかどうかによって、判断は変わってくるよねと。世界情勢だってそうでしょうし、考え方とかそういうものもそうでしょうし。だから、しっかりとした知識を学校で身につけさせることは本当に大切になるので、先生方のお力も大切だねという風に思いますね。ただ、その一方、例えば身近な例として、英語がすごく不得意な子がいて、授業を一生懸命聞くけど、どうしても入ってこない。でも、真面目にその子は授業を受けている。その姿勢を知っていて、中学校1年生、2年生の評価はそれなりに、3くらいの評価をもらっていて、授業態度のところはAをもらっていた。その子が、例えば中学校3年生になって、英語の先生が替わった途端に、たしかにテストの点は取れない。でもどんなにわからなくても、騒ぐことなく真面目に一生懸命授業に出ていた。だけれども、その評価が1になって、さらに授業態度はAではなくCになってしまった。その子は泣きました。3から1に落ちるのはテストの点数が取れていないからわかる。でも、ふざけている子がいる中で一生懸命やっているのに、なんでCになっちゃったんだよ、もう学校に

行きたくない。教師のそういう見方1つで子どもの心を折ってしまったりだとか、不得意を生んでしまうこともあるんですよね。だから先生方がどういう風に考えて、どういう風に子どもを評価するのか。点数やA B Cの評価や、1から5までの評価をつけるのは辛いことでもあるんでしょう。やらなきゃいけないことでもありますし。だけれども、どれだけ子どものやる気だったりだとかを、ちゃんと救い取るのかという。人間力と言うんですかね。先生方にもそこを持っていただきたいなという風に思うんですよね。また人の話に戻っちゃうんですけどね。でもやはり、子ども達がやっていて納得いくように。もちろん悪いことをしたらちゃんと叱ってあげなきゃいけません。これはいけないことなんだよと導くこともとても大切です。褒めてばかりはいられません。でも、どんなに苦手でも、一生懸命取り組もうとしているなら、それは頑張っているなど。わからないところがあつたらすぐ聞きにおいで、いつでも教えてあげるよと。それで良いのではないかと思うので、その一言があるのかどうなのかで、子ども達の学校に対する気持ちが変わってくると思うんですよね。せっかく入れ物も良い環境も作るんですから、先生達もそこを大切にしてもらえたら、すごく良い学校になるのではないかなと。

市長 一人一人に目の届くというか、目をかけてもらえるような。

委員 そうなると、今度は校長先生や教頭先生の荷が重くなってくるので、倒れないようにフォローしなきゃいけないねと。どの部分も大切というような意味では、そういうところも大切かなという風に思います

市長 ありがとうございます。色々とお話を聞かせていただきましたけれども、次の議題に移りたいと思います。

以 上

※「(2) 令和7年度いじめアンケートの集計結果について」及び「(3) 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について」は、個人情報に関する案件のため非公開。